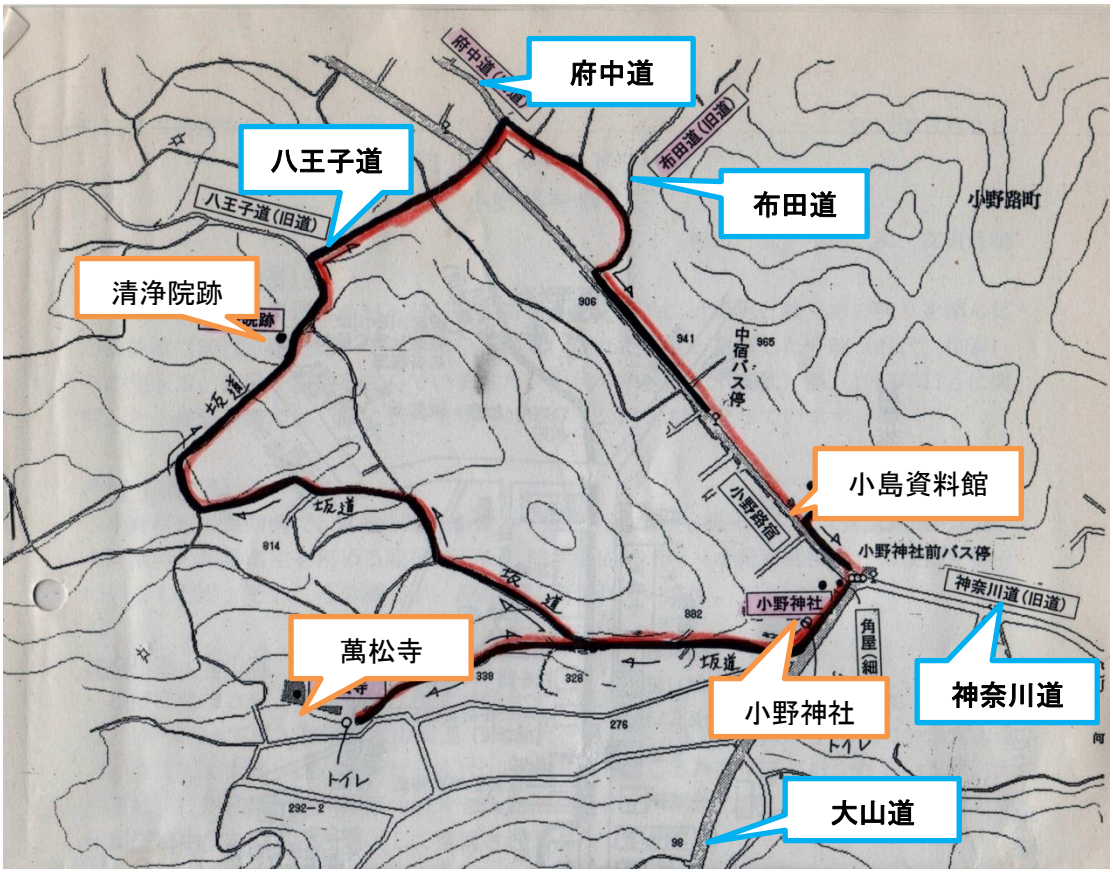
【雑学】町田を歩く②.（小野路宿と里山を巡る）

明治 22 年、小野路村は大蔵村・能ヶ谷村・金井村・野津田村・真光寺村・広袴村・三輪村が合併し、南多摩郡鶴川村大字小野路となった。合併した上記の村名は今でも町田市内の町名として残っている。現在は町田市小野路町となり、市の北部に位置し多摩市に接して市の辺境の地と思われているが、古来、大山道（**江戸初期に徳川家康の遺骨を久能山から日光に移すに際して、東海道平塚宿より甲州街道府中宿を結ぶ往還路として整備され、御尊櫃御成道と言われた**）や布田道（**甲州街道の布田宿を経由する江戸への近道であった**）の宿場として武州（武蔵国）の村々と相州（相模国）を結ぶ要路であった。また交通の要衝に加えて、文政 10（1827）年の関東取締御改革により寄場組合村（35 村を束ねた組織）が結成され小野路村にその 35 村の寄場が置かれたことによる。

今回の散歩は町田自由民権カレッジ二期生･一年次の最初のフィールドワークである。下図は小野路宿で訪問した拠点の概念図である。



ゴッチク文字の文章は民権資料館の学芸員である杉山・小林・友田先生が作ったレジュメである。バス停「小野神社前」に集合し点呼を受けいざ出発となる。

◆小島資料館（小島家） 町田市小野路町 950 番地

幕末維新期に小野路村外３４ヶ村組合の寄場名主を務め、近藤勇と義兄弟の契りを結んだ小島為政（２０代、鹿之助）やその子で漢文に優れた才能を発揮した守政（２１代、慎斎）等の生家で、質屋や油屋を営んでいた。先代の宗一郎氏（２３代）が１９６８年 11 月に開館した小島資料館では、家に伝わる資料の保存・公開を行っている。

現在の館長は小島政孝氏で、開館日は第一と第三の日曜日午後 1 時～5 時に限られる。

入館料は中学生以上 600 円となっている。私たちは団体扱いで特に午前 10 時に入館させていただいた。何故私設の資料館を作ったかを館長にお伺いしたところ、一度は資料を町田市に寄贈を申し出たが、市には保管場所が見つからず断りを受けたとのことであった。

それではと政孝氏の御尊父が邸内に私設の資料館として開設したそうである。

小島資料館の正門石標と資料館本館。前庭に屯しているのは我々自由民権カレッジ二期生。

義兄弟の契りを結んだ小島鹿之助像（前庭に設置されている）と近藤勇像（ひっそりと中庭に設置されている）

小島鹿之助と近藤勇と日野宿寄場名主・佐藤彦五郎（土方歳三の義兄）は天然理心流の剣術を通じ、3 人で義兄弟の契りを結んでいる。後々京に上って新撰組を組織する近藤勇や土方歳三のスポンサーとなる方々である。

さて小島資料館に別れを告げ、大山道に面した小野路の村名の基ともなった言われる小野神社（祭神・小野篁）へ向う。

◆小野神社

創建期は不明だが、「小野大明神宮」の名が刻まれた応永 10（1403）年奉納の宮鐘が海宝院（逗子市）で見つかっていることから、それ以前の創建であることがわかっている。宮鐘は、別当寺だった清浄院の住職が撞いて人々に時を報せていたようだが、文明年間の戦乱のさなか、山内上杉氏の兵によって陣鐘として持ち去られた。現在では復元寄進された鐘が拝殿に見られ、神仏習合の名残りをうかがわせている。祭神は小野篁で、10 世紀に武蔵の国司として赴任した小野孝泰が、先祖に当たる篁を祀ったことにはじまるとされている。明治期に、神社合祀政策のもとで周辺の谷戸に点在した 13 の社を合祀することになり、以来村社としての役割を担ってきた。

小野神社の石標と社殿

◆萬松寺

小野神社より萬松寺に向うため街道を離れ雑木林に囲まれた里山に入る。ほんの数百メートル山道に入っただけなのに人里を離れた深山幽谷の気持ちがしてくる。萬松寺の手前分岐点には六地蔵が祀られている。萬松寺を拝観して清浄寺跡へ向うときにまたこの六地蔵のある分岐点まで戻ることになる。

山寺号を「小野山萬松寺」と称する。明治 4（1871）年に開学した小野郷学の仮校舎の一つが、ここ萬松寺に置かれた。昭和 20（1945）年 5 月 25 日、米機が落とした焼夷弾により本堂、玄関などを焼失、現在も土蔵の壁に焼夷弾の跡が残っている。当時、同寺には品川区鈴ヶ森国民学校の児童が疎開をしていたが、付近の寺に避難していて無事であった。焼失した本堂跡に設けられた仮本堂で、長らく仏事が行われてきたが、昭和 54（1979）年以来数年をかけて本堂・客殿などが復興された。

萬松寺を後にして六地蔵の分岐点まで戻る。ここより清浄寺跡まで行くには小高い山を目指した登り道を行くことになるが、登り道の左手には小さな牧場（萩生田牧場）がある。しばらく登ると頂上だ。そこから清浄院跡までは下り道となるが、眼下に何十にも分轄された大規模な市民農地が現れる。その農地を避けるように道を下ると清浄院跡に到着だ。

◆清浄院跡

山寺号を「星谷山清浄院福田寺」と称した。明治初年に焼失した後廃寺となり、現在敷地は畑と化しているが、周辺の畦道などに同寺住職の墓石や「星谷」と記された道標などを見出すことが出来る。

現在、跡地には立派なバイオトイレが設置されている。市民農園の方々や、小野路の里山を訪ねるハイカーの利便と環境の保護を図っているのであろうか。

清浄院跡とバイオトイレに別れを告げ、山道を下ると辛うじて水流の有る小野路川に至る。小野路川は小野路宿では街道に平行した開渠となり道幅は狭い。小野神社前バス停より鶴川に向う先は暗渠となる。その小野路川が流れこむ先は鶴見川である。

《追記》平成 27（2015）年、現在では小島資料館向の旧・角屋（細野家）を改造改装した小野路宿里山交流館（フィールドワーク時は工事中）が完成し、小野路を訪れる人々の交流の場となっている。

文責：小林尚道